

山陰総合

sanin

松江

新庁舎説明 再度すべき

不満2割受け議会特別委

市は出前講座開く考え

市役所
建て替え
どうする!?

松江市議会の新庁舎建設特別委員会（立脇通也委員長、9人）が28日あり、市が開いた市役所本庁舎の建て替え事業に関する住民説明会の満足度調査で約2割が不満と回答したことを受け、市民に改めて丁寧な説明すべきだとの意見

が相次いだ。市側は出前講座を企画する考えを示した。市は6～8月、公民館区ごとに地区代表者などを集めた説明会を開催。参加した818人のうち、669人からアンケートを回収した結果、計40・9%が「満足」「やや満足」したと答える一方、19・3%に当たる129人が「不満」「やや不満」と回答した。

特別委では、複数の市議が、現地建て替えを決めた経緯や150億円と見込む事業費の説明を市民に再度行うよう求めた。市議34人のうち16人が所属する最大会派・松政クラブの野津直嗣議員は「（さらなる説明の実施が）課の体制として難しいのであれば、広報班をつくって対応すべきだ」と指摘。同会派の森脇勇人議員は「市民の質問に対す

る回答を回覧で配ってほしい」と求めた。

これに対し、市新庁舎整備課の岡田等課長は「多くの市民に直接、お話しできる機会を設けたい」と述べ、出前講座を開く考えを示した。

事業を巡っては、市の説

明が市民に十分に行き届いていないとして、市民団体が着工延期の是非を問う住民投票の実現を求めて署名活動を展開。1カ月間で1万5千人分を超える署名が集まった。現在、市選挙管理委員会が有効署名数を確認しており、9月下旬の市長への直接請求を経て、市議会でも条例案が審議される見通し。

（佐々木一全）



令和2年(2020年)

8月25日(火)

松江市新庁舎

建設中断し住民の声反映を

住民投票条例
制定求め市民団体

署名1万5314筆を提出

松江市役所の新庁舎建設の一時中断の是非を問う、住民投票条例の制定を求め、「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(呼びかけ人・片岡佳美島根大学教授ら4人)が24日、集まった1万5314筆の署名を松江市選挙管理委員会に提出した。

同求める会が目指すのは、「新庁舎建設を中断し、市民との対話討論を経て見直す」との是非を問う、住民投票の実施。「市民が考えたり、意見を言ったりする間も十分になく、知らないうちに、巨額の費用をかけた事業が決まっていた」など問題提起し、7月21日から1カ月以内の署名活動を行ってきた。

条例制定の直接請求に必要なのは、有権者の50分の1(約3360人)以上の署名。今後、同選管が20日間以内に、書名と選挙人名簿の突合などを実施し、署名の有効性を確認する。署名が有効であれば、7日間の縦覧の後、同求める会が、条例案とともに市長に提出。市長は提出から20日以内に市議会を招集し、可否を議論する

ことになる。片岡同大教授は、市長提出までの約1カ月の間に、市長との面談や市民集会などを行いたい考え。現在、調整を行っているという。同市現庁舎は1962年に建設。大規模な改修がないまま、50年以上が経過している。同市では、2014年に着手した耐用年数調査や庁舎総合評価などを経て、16年に整備基

本方針を策定。「新しい松江市役所検討市民会議」(委員長・足立正智)など

基本設計を発表している。完成予定は2026年度中。今年度中の着工が予定されている。整備事業や、市民から寄せられた質問・回答などについては、同市HP(<http://www.city.matsue.shimane.jp/index.html>)の「松江市新庁舎の整備について」に詳しい。

松江市長

新庁舎「計画変更なし」

住民投票求める署名に見解

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業を巡り、着工延期の是非を問う住民投票の実現を求め

どうする!?

市役所 建て替え

署名が約1万5千人分集まったことに関し、松江市の松浦正敬市長が26日の定例会見で「住民投票を実施すべきとの主張であって、全てが（事業に）反対という意見ではないと思う」と述べた。建設を止める必要はないとの認識も示し、現行計画のまま事業を進めていく考えを強調した。

松浦市長は、建て替え事

業の延期を求める市民団体が集めた署名簿について「署名された方々がどのような意見を持っているのかは分からない。いろんな意見があると思う」と指摘。市民への事業説明が不十分との批判に対しては「情報は常に出している。自分の耳に入っていないことをもって説明がないと言い、それを理由に延期を求めるのは少し乱暴ではないか」と

反論した。

市民の代表である市議会の承認を得て事業を進めているとして「議会制民主主義は地方自治の根幹を成すものであり、そのルールの中で段階を踏んで手順を尽くしている」とも述べた。

大規模地震に備えた小中学校や公民館、支所などの耐震化に続き、市民の安全・安心を確保する必要な事業だと重ねて訴えた。

（久保田康之）

こだま

投稿規定

長さは400字以内(趣旨を変えない範囲で、手直しすることがあります)。
宛先は〒690-8668、松江市殿町383、山陰中央新報社編集局「こだま」係。
FAX番号0852(32)3520、電子メールkodama@sanin-chuo.co.jp
郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。実名掲載。採用分には図書カードを贈呈。他紙との二重投稿、採否の問い合わせ、原稿の返却はお断りします。差出人不明の場合は掲載しません。

現在地は若者のために活用

松江市浜乃木

乾 薫 78歳

松江市の主な産業は観光やサービス業です。国際文化観光都市という看板は立派でも、生かされているでしょうか？現在地建て替える新庁舎がいくら素晴らしい建物だからといって、観光客

どうする!? 松江市庁舎

が増え、満足してくれるでしょうか？

この素晴らしい立地条件を生かした企画を市民の皆さまと関係者の方々と一緒に考えられてはいかがでしょうか。今、松江出身の若者たちによる音楽グループは全国で活躍されていますね。ヒゲダンやサウシードッグ

をはじめ、たくさんの方々が活躍しています。現在地は、



音楽や他の行事のイベント会場に、そして市民の憩いの場などに利用され

市民の最善の利益優先願う

松江市西尾町

浅津 寿広 62歳

これまで松江市庁舎の建設問題はさほど気にも留めていなかった。よく

てはいかがでしょうか。松江を拠点とし、全国から若者たちが集まり松江を盛り上げるようになれば、経済効果も生まれます。将来の松江を豊かに、元気にするのは若者たちです。この素晴らしい環境に育つ松江人の才能や個性が育てられ、生かされる場所を提供してください。

聞くと庁舎を建て替えることについて問題はなさそう。問題なのは、主に「場所」「費用」「期間」の3点で、これについて再考を促している。具体的には、現地より県

立アール跡地が市の中心地で、周辺環境も市役所建設地として適している。その場所であれば費用も安く期間も短くて済むとのこと。

これに対し、市は「5年前から議論を積み重ね、公表してきた。すべて手続きを踏んできた」との主張。この主張も分からないではないが、この間に社会情勢は大きく変化してきた。少なくとも新型コロナウィルス感染の拡大による全世界的な影響や、松江市の未来を担うべき子どもの出生数が2年連続で1500人に激減したことは想定していなかったはず。

市民は「高価な市庁舎の建設など望んでおらず、将来的な不安への公的対処」を願っている。ここは、市長に「市民の最善の利益を優先」し、勇気ある決断を切に願っている。

住民投票の請求

松江市長が批判

新庁舎問題「理屈が乱暴」

松江市の松浦正敬市長は26日の定例会見で、市役所新庁舎建設計画の中断の賛否を問う住民投票条例の制

定を求める署名簿が提出されたことについて、「市広報やホームページで（事業計画は）公開し、議会にも説明してきた。その人たちの耳に入っていないということ、『説明が足りない』と言われると、どうしていいかわからない。理屈の立て方として乱暴だ」と批判し、予定通り進める考えを示した。

署名簿を提出したのは、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」。

松浦市長の発言に対し、呼びかけ人の片岡佳美・島根大教授は「市長は市民と対話をしたくないのか。市長が言う『説明』は『こう決まりました』という『報告』だ。私たちは決定のプロセスが分かるような説明が欲しい」と話した。同会は24日に、条例制定の請求に必要な有権者の50分の1（3千数百筆）を大きく上回る1万5314筆の署名を提出した。

（奥平真也）

松江市新庁舎

市選管署名簿審査を開始

9月中旬に有効数告示

松江市役所本庁舎(松江市末次町)の建て替え事業を巡り、松江市選挙管理委員会が25日、住民投票条例の制定を求める市民団体の集めた約1万5千人分の署名簿の審査を始めた。9月

13日をめどに有効署名数を告示する。団体は署名簿の返却後、9月下旬ごろに住

民投票の実施を市長に直接請求する考え。

た1万5314人分の署名について、一筆ずつ選挙人名簿に登録されているかどうかを調べて有効、無効を

判断する作業に着手。完了後、7日間の縦覧を経て団体に署名簿を返却する。地方自治法は、有権者の50分の1以上(約3400人)の署名を集めて直接請求された場合、市長が市議会に条例案を提出しなければならぬと定めている。

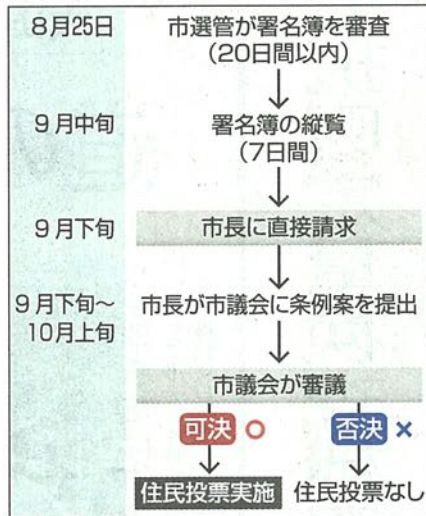
岡代表は「多くの方に賛同いただき感謝したい。『待った』の思いを込めて、引き続き市に対話を求めていく」と述べた。(佐々木一全)

どうする!?

市役所
建て替え

署名を集めた市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」(代表・片岡佳美島根大教授)は、現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問う住民投票の実施を求めている。市選管は24日に提出され

住民投票条例案を巡る今後の流れ





令和2年(2020年)

8月28日(金)

松江新庁舎

市長「止めることはない」

市民団体署名受け表明

松江市の新庁舎建設計画について、市民団体が建設一時中断を求める署名を提出したことに関し、松浦正敬市長は26日、「(建設に向け)これまで一定の手続き、議会の了承を受けてやってきた」と改めて強調し、「署名があったからといって、建設を止めることはない」との考えを示した。26日の定例会見で、報道陣の取材に答えた。

新庁舎建設を巡り、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が24日、建設計画の一時中断の是非を問う住民投票条例の制定を求め、1万5314筆の署名を提出。

「知らないうちに、巨額の費用をかけた事業

り、安心安全を確保する」と述べた。

また、同団体の主張に対し、「議会制民主

主義を駄目とする声に、なんと言っているのか分からない」と述べた上で、「直接請求

するならば、考え方を示してほしい」と求めた。

同市はこれまで

に、公共施設の耐震化について、総額約160億円をかけ、小中学校、公民館などの改修を推進。新庁舎建設は「最終の事業」と位置付けている。建設費の大部分は起債により賄うが、同市は「後年度負担の縮減」のため、財政運営計画に基づき、基金を積んでいる。

住民投票条例求め1万5000人超

初の直接請求へ署名提出

松江市新庁舎 団体「市民不在の表れ」

総額150億円と見込まれる松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業の延期を求める市民団体が24日、住民投票条例の制定に賛同する署名が1カ月間で1万5314人分集まったと明らかにした。団体側は「市民不在で事業が進むことへの怒りの表れだ」と強調。松江市の施策に関して条例制定の直接請求が行われるのは初めてで、大きなうねりとなった住民の意思が市長、市議会にどう響くのか、新たな局面を迎えた。

（佐々木一全） 24面に関連記事



集まった署名簿を提出する市民団体の片岡佳美代表＝松江市末次町、市選挙管理委員会

住民投票条例は、現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問うために制定する。

どうする!?

市役所 建て替え

実現には市内有権者の50分の1（約3400人）以上の署名を集めて市長に直接請求する必要がある。大学教授らでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が7月21日から今月20日まで署名活動を展開していた。

有効署名数の審査のため、24日に市選挙管理委員会へ署名簿を提出した片岡代表は「相当な数の市民が、市民不在で事業が進むことに怒りを感じていることが分かった。市民の納得は全く得られていない」と訴えた。

直接請求は住民の基本権として認められており、住民投票は市民の意思を直接、確認する手段となる。

市の選挙人名簿登録者数（6月1日現在）は16万7907人で、集まった署名数は9％に相当する。

市民団体は有効署名数の確定後、9月下旬をめどに市長に住民投票条例の制定を直接請求する考え。その後、松浦正敬市長は地方自治法に基づき、市長意見を付けて20日以内に市議会に条例案を提出しなければならない。住民投票は、市議会が可決しなければ実施されないため、片岡代表は市長や市議、市民との意見交換会を開催する考えを示した。

新庁舎 市民「待った」

説明不足 市の認識とずれ

松江

1万5千人以上の市民が、松江市が進める市役所本庁舎の現地建て替え事業に「待った」の声を上げた。集まった署名の多さは、説明を積み上げてきたと主張する市側と市民との認識の違いを浮き彫りにした。

(佐々木一全、久保田康之) Ⅱ一面参照



松江市が現地建て替えを計画する市役所本庁舎。松江市末次町

どうする!?
市役所
建て替え

宍道湖畔の現在地での建て替えが決まった経緯や、150億円と見込まれる多額の事業費に関する説明が市民に行き届いていないとして、市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が7月下旬に始めた署名集め。団体側の当初の予想に反して、活動趣旨に賛同する声は日増しに高まり、次々と署名が寄せられるようになった。

市民団体の呼び掛け人を

務める関耕平島根大教授は「これまで市の施策に市民が声を上げるという動きがなく、行政に任せっきりだった。そうした文化への大きな不満が顕在化した結果だろう」と分析する。

市は、市報を使った計画内容の周知やパブリックコメント（意見公募）を通して説明を重ねてきたと主張する。

ただ、総事業費が150億円に上ると公表した2019年11月以降、市民が意見表明できる機会を設けておらず、今月8日に別の市民団体が企画したシンポジウムへの参加打診も断った。

今回の動きについて、市新庁舎整備課の岡田等課長は「詳細を把握しておらず、コメントは差し控える。市報や説明会などを通じて市民に理解してもらえよう最善を尽くす」と述べるにとどめた。

こうした市の姿勢に対し、関教授は「（署名活動

の結果を）敵対視するのではなく、議論の活性化になてほしい」と願う。

「市民不在」で事業が進んだ証左にも受け取れる1万5千人分の署名。市長と市議会がどのように受け止めるのか、市民が注視している。

「新庁舎再考を」

署名1.5万筆提出

松江、住民投票要望

松江市新庁舎の建設中断の賛否を問う住民投票条例の制定を求めている市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は24

日、1カ月で集めた署名簿1万5314筆を、地方自治法に基づき市選挙管理委員会に提出した。条例制定の請求には有権者の50分の1以上の3千数百筆の署名が必要だが、それを大きく上回った。

市選管は、25日から20日



以内に、署名を選挙人名簿と照らし合わせて有効か無効かを判断する。7日間の署名簿の縦覧期間を経て、会は松浦正敬市長に対し住民投票条例を本請求。市長が条例案を提案し、市議会が賛成多数で可決すれば住民投票が実現する。

呼びかけ人の関耕平・島根大教授は「これだけの署名が集まったのは、行政にお任せになってしまった声が上がられなかった市民の不満が顕在化したのではないか」。片岡佳美・同大教授は「市長との対話も呼びかけたい。市長や市議の皆さんの考えを聞きたい」との考えを示した。

松浦市長は予定通り12月に着工している。

（奥平真也）

署名1万5314人分提出

松江市新庁舎巡り 住民投票求める

12月着工予定の松江市新庁舎の事業延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は24日、延期の是非を問う住民投票実施を求める1万5314人分の署名簿を市選挙管理委員会に提出した。直接請求に必要な有権者の50分の1（3359人）を大

代表は「潜在的な賛同者は署名数以上。事業は市民の理解を得られ

ていない」と訴えた。市選管は9月13日までの20日間で署名の有効性を確認し、1週間の縦覧期間を経て同会に署名簿を返還。同会の共同代表らが5日以

内に住民投票条例制定を市長に直接請求する。
【前田葵】



署名簿（手前）を市選管に提出する片岡佳美・共同代表（右から2人目）ら＝松江市末次町の市役所で

こだま

投稿規定

長さは400字以内（趣旨を変えない範囲で、手直しすることがあります）。宛先は〒690-8668、松江市殿町383、山陰中央新報社編集局「こだま」係。FAX番号0852（32）3520、電子メール kodama@sanin-chuo.co.jp 郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。実名掲載。採用分には図書カードを贈呈。他紙との二重投稿、採否の問い合わせ、原稿の返却はお断りします。差出人不明の場合は掲載しません。

立ち止まって声に耳傾けて

松江市湍北台

青木 豊 41歳

松江市の新庁舎建設については、以前から外壁のさびなどもあり、賛成でした。ただ、建て替えが決まってから、新庁舎

の完成イメージが発表されるまで、情報が公に出ていなかったように感じます。

7月27日付本欄での門脇正人さんの投稿にすごく共感しました。利便性

どうする!? 松江市庁舎

を考えたなら、県立プール跡地がいいというのも分かります。

この段階での市民の意見に対し、新たな案を作り進めていくのは手間がかかるので、松浦正敬市長が「もう決めたことだ」と言つのも少なからず分かります。

しかし、市役所は市長やこの計画を進める人だけが納得いけばいいとい

うものではありません。申請などで市役所を利用しなくてはならない市民が「待ったをかけているのだから、着工前に改めて意見を聞き、どうやって使いたす、建て替えてよかった」と言えるものができるのか考えてみてもらいたいです。

市には個人でも仕事でも趣味でも大変お世話になっているので、こんなことは言いたくないですが、やはり市民あつての松江市だと思うのです。耳を傾け、足を止め、市民と市が納得いくラインを確立してから建て替えてもいいと思います。

コロナ禍での計画推進疑問

松江市伊勢宮町

青戸 寛 63歳

「松江市くらしの便利帳」をご存じでしょうか？ この132ページに「市政を身近に」、それに続

いて「市議会とは」と載っています。昨今の市民の意見やそれに対する

この2月ごろから不安が増し、さまざまな業種が休業に追い込まれ、街行く人影もまばらになるなど、戦後生まれの私た

ちにとつては初めて経験する今回のコロナ騒動です。「コロナと市庁舎の問題は別物」「松江市の財政力では問題のない金額」との認識ですが、閉店や廃業に追い込まれた店や会社もあり、また頑張っている業種も、給付金の申請をしようと思っ

た途端に「終了しました」のひと言です。このような状況で、150億円もの大金を掛けて行う事業を、今この時期にこのまま何もなかったかのように進めて良いものかどうか大変疑問に思います。市民の方々もいろんな案をお持ちのようです。立ち止まって考えるべきだと強く思います。



松江市役所が建て替わるの？



なるほど 松江市役所の建て替えが最近、話題だね。

記者 本庁舎の本棟（同市末次町）は1962年築。古くなり、地震にも弱いいため、2015年3月に現地での建て替えが決まりました。20年12月に工事を始め、23年度に使い始める予定です。

Q 事業費が30億円も増えたことを巡って、市民団体が事業の中断を求めて住民投票条例制定を目指しているね。なぜ30億円も？

A 18年9月発表の基本計

1962年築で地震に弱い

事業費増で反対意見も

画では事業費は約120億円、これは人口規模が松江と同じ広島県呉市の庁舎建設を参考にした概算でした。東京五輪準備などによる建設コストの上昇傾向を盛り込み、「正確に計算」した結果、19年11月発表の基本設計では150億円になりました。

Q 150億円って高いの？

A 松浦正敬市長は「市の財政面から見れば妥当だ」としています。一方、近年の山陰両県の庁舎建て替えはいずれも100億円未満です。事業費150億円のうち、50億円は積み立てた基金を使い、残りは市債を発行します。

Q 市債って？

A 簡単に言うと市の借金です。市民から集める税金で

返すため、住民団体は「市民の借金になるのに十分な説明がない」と主張しています。

Q 現地で建て替えようとしているのはなぜ？

A 新庁舎を別の場所に建てる、工期を短くしたり事業費を抑えたりできます。しかし市は街づくりの観点から「中心施設は動かすべきではない」としています。

Q 市民に意見は聞いたの？

A 市民の代表たちでつくる外部委員会や市議会です話合いがありました。市民の意見を集めるパブリックコメントは17年12月と19年4月に。同年11月以降は市議会の新庁舎建設特別委員会です話し合

い、GOサインが出ました。

Q 住民投票条例が制定さ

れて事業が中断するとどんな影響があるの？

A 市は、最低でも4年以上遅れ、移転になればさらに遅れると見込んでいます。現在、発行予定の市債は利息を含め114億円ですが、うち34億円は国に払ってもらえるため、市の負担は80億円です。事業が遅れると国に払ってもえなくなり、市の負担が増えるといえます。

Q 市民はどう考えているのかな。

A 新しい建物が豪華すぎるとか、新型コロナ問題の今やる事業ではないなど、反対意見は多くあります。一方、商工会議所は経済回復のため予定通りの着工を求めています。

Q みんなが納得できる方法で進めてほしいね。



回答・前田葵

随時掲載します。取り上げてほしいテーマを、封書かファクスで松江支局にお寄せください。

市議会議員の考え聞きたい

松江市古曾志町

清水 正次 56歳

新市庁舎の建設場所に関し、ほとんどの松江市民は市政に対し、市議会の議決を金科玉条とし、

市民の参加を全く寄せ付けない独断専行だと感じていると思います。

さまざまな意見がある中で150億円の税金を使う以上は、市民の合意

どうする!? 松江市庁舎

を得る必要があるのではないのでしょうか? 民主主義社会において、たとえ結果が現計画と同じとなろうとも、自由に市民が参加できる公開討論会などの場が全くないことに大きな問題があると思います。

のでしょうか? せめて選挙で選んでくれた有権者たちに説明責任があることを感じられ、新市庁舎建設に関し地元説明会などをなさった市議会議員はおいでになるのでしょうか? わが町内では皆無ですし友人たちとの問題を話し合うにつけても皆無です。

市議会議員の皆さまの考えをぜひ聞かせていただきたいと思います。

新天地に簡素な建物を望む

松江市国屋町

酒向 武 77歳

新庁舎建て替え事業について、市民の関心の高まりを感じます。市内のトップを切って松江城西

になります。

私なりに三つの気付いた点があります。

一つ目は150億円の予算額と約7年の工期です。もちろん専門家を交えた行政の考えですが、多額と思える予算と長期におけるいろいろな課題が考えられます。

二つ目は解体を伴う現在地の使用です。私は建設業に従事した経験から現地で解体しての建設は日数と費用がかさむ気がします。

三つ目は原発問題に絡むことです。言うまでもなく原子力発電所に近

く、もしもを思うと少しでも距離を取ることが必要と考えます。

私は建て替えに賛成ですが、予期せぬ天災、疫病、少子高齢化などを考慮すると、後世に借金や負担をかけぬ簡素な設計や場所の新天地を望みます。

「説明責任を 果たすべき」

市議
川市
街頭
演説

松江市役所本庁舎（松江
市末次町）の現地建て替え
事業を巡り、市議会最大会
派の松政クラブに所属する
出川桃子市議「写真」が18
日朝、同市朝日町のJR松
江駅前で街頭演説を行い、
事業計画に対する市民の理

どうする!? 市役所 建て替え



解が十分に得られていない
として、市が説明責任を果
たすべきだと訴えた。

出川市議は、老朽化が進
む本庁舎を建て替える必要
性には理解を示した上で
「新庁舎の施主は市長でも
市議でもなく市民だ」と指
摘。総額150億円と見込
まれる事業規模や着工時期
について市民の意思を十分
に反映しないまま計画を推
し進めれば将来に禍根を残
すことになる」と主張した。

市民から疑問の声が上が
る中、市が年度内着工の構

えを崩していないことに対
しては「結論ありきのまち
に若者が魅力を感じるの
か」と述べ、政策決定の在
り方に疑問を投げ掛けた。

（久保田康之）

直接請求の署名確保

住民投票条例

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業に関する住民投票条例の制定を目指す市民団体が17日、市長への直接請求に必要な署名数を大きく上回る5960人分の署名が集まったと明らかにした。現時点で回収できた署名簿は全体の3割ほどで、さらに増える見込みという。市議会への条例案提出が現実味を帯びた。
（佐々木一全）



松江市役所前で市民（右）に署名への協力を呼び掛ける市民団体のメンバー＝松江市末次町

市民団体 必要数大きく上回る 議会提出に現実味

どうする!? 市役所 建て替え

住民投票は、現行の建て替え事業を中断して計画を練り直すか、2020年度中の着工を予定する市の計画通りに進めるかを二者択一で問う内容で、実現させるには市内の有権者の50分の1（約3400人）以上の署名を集めて市長に直接請求し、市議会が条例案を可決する必要がある。

署名活動は、大学教授らでつくる市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が7月21日から実施。戸別訪問や街頭、商業施設や宿泊施設に設けた「署名スポット」で協力を呼び掛けてきた。今月20日まで続け、集計後に市選挙管理委員会に提出する。

直接請求が出された場合、市長が条例案を市議会に諮ることになり、9月下旬ごろに審議される見通しという。

17日に市民団体のメンバー15人と共に、市役所前で署名の協力を呼び掛けた片岡代表は「多くの方に賛同してもらっている。市や市議会に市民の声の重みを受けて止めてもらえるよう、

最終日の20日まで、一人でも多くの署名を集めたい」と力を込めた。

新庁舎の着工

「計画通りに」

松江商議所、申し入れ

松江市の新庁舎建設計画について、松江商工会議所の鷗鷯順・副会頭らは4

日、松浦正敬市長に「地域産業の振興、雇用の安定のため、地元企業へ発注し、当初の計画通り今年度中の着工を」と申し入れた。

鷗鷯副会頭は「新型コロナで地域経済は打撃を受けており、その点からも予定通り、早めに着工していただいた方がいい」と求めた。松浦市長は「コロナもあるが、計画通りに進めることが出来る環境にはあ

る」と、今年12月着工の計画を変更する考えはないことを強調した。

市は3日、庁舎正面入り口横に建築計画を知らせる木製の看板を設置。着工予定が今年12月28日、完成予定が2025年10月31日と記載されている。

新庁舎の建設をめぐるっては、市民団体が建設計画の中断の賛否を問う住民投票条例の制定を求めて署名活

動をしている。松浦市長は3日の定例会見で「看板は建築基準法に基づく手続きの一つ。市民の気持ちを無視して強行的に進める意図ではない」と説明した。

(奥平真也)

ニュース短信

◆新庁舎建設中断へ署名スポット
松江市役所の新庁舎建設
計画の中断を求めている市民団

体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は6日記者会見し、住民投票条例制定を求める署名への協力を求めた。8月20日までに有権者の50分の1以上の署名が必要で、JR松江駅前の松江テルサに署名スポットを設けているという。午前10時～午後6時に署名が出来る。他にも6カ所の署名スポットがあり、詳細はホームページ（<http://mat.ta.jp/>）で確認できる。

現在地に地元業者で建設を

松江市浜佐田町

内田 盛信 85歳

12月着工で準備が進んでいるようですが、代案を述べ再考を促します。

立地条件を考慮し、現

庁舎はいったん撤去した上で現地に建設する▽新

庁舎完成までの仮庁舎を、くにびきメッセに置く▽新庁舎はシンプルな箱形とし円形、角形など

どうする!? 松江市庁舎

特別なデザインにしない

▽工事費は100億円を

最高限度とする▽工事は

県内業者で施工する▽工

事期間は2年間とする

！。

まず地産地消の地元経

済効果を考え、工事を県

内業者で共同企業体を組

織し、設計段階から、1

00億円で建設するには

どんな方法があるかを考

える。市民の税金で建設することになるので、全て市民が納得することが

は上がる。

無駄を省く趣旨から、

市長室は6畳の広さとする。

多人数の応接は会議

室などで行う。構造は市

民優先の形で考えること

が必要である。

今やAI（人工知能）

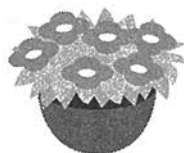
の時代で、設計や工事は

大手業者、中小業者の区

別はない。以上いささか

でも参考になれば幸いです。

ある。



声多く聞き愛される庁舎に

松江市東本町

福島 伸子 88歳

7月10日の本欄で「災害も視野に利便性重視

を」と題して県立プール

を」と題して県立プール

跡地の建設を提案されて

いた渡辺俊樹さんの投稿

を読み、とてもうれしく

なりました。私は父の転

勤で松江に住むことにな

り70年たちました。根っ

からの松江人です。湖も街も人々も大好きです。

だからこそ市庁舎も人

々の利用しやすい愛され

るものを建ててほしいの

です。交通の便利な所、

橋南橋北それぞれから行

きやすい、災害時にも大

丈夫な所、松江駅に近く

法務局も年金事務所も近

く合同庁舎にも行きやす

い。地下駐車場を考えな

くても良い。

プール跡地は避難所と

いわれている安全地帯。

工事をするにもすぐ取り

掛かれそう。今コロナ騒

動の中、急ぐ必要はない

ではありませんか。15

0億円という金額は他の

市に比べて多すぎません

か？ 後の世代に負担を

かけることを考えて、市

民の税金は大切に使うて

ください。多くの市民の

声に耳を傾けて建て替え

てください。

後味悪い説明会 在り方疑問

松江市新雑賀町

片山 良治 63歳

たまたま公民館に行く
と、市庁舎建て替え説明
会があることを知り、参
加することができまし
すよ。

た。どうして市は市民に
説明会開催を市報や回覧
などで事前に周知しない
のでしょうか。株主総会
では2週間前に通知しま
すよ。

どうする!? 松江市庁舎

説明会冒頭の市側の発
言にも驚きを禁じ得ませ
んでした。「市庁舎建て
替え問題を政争の具にし
てはいけない」とは一体
どういう意味なのでしょう
うか。

これは市民の自由な議
論を封殺する発言であ
り、政治家が言うならま
だしも、行政職員にはと
ても不似合いで不釣り合
いな発言だと思いまし
た。何とも嫌な気分にな
ると同時に、説明会に対
する市の姿勢がそれとな
く透けて見えました。あ
りていに言えばお飾りで
あり添え物ということで
す。

移転し跡地は小売業振興に

松江市春日町

室田 浩吉 57歳

松江市で開業している
小売業者として、また37
年県外で生活していた県
外者として、また松江市
民として意見させていた
だきます。

まず松江市役所は移転
して、その跡地には松江

1時間ばかりの説明会
でお茶を濁し、市庁舎建
て替え工事に前のめりに
なっている今の市の眼中
には、どうやら市民の2
文字はなさそうです。何
とも後味の悪い説明会で
した。

市の全小売業者が平等に
週単位で出店できる施設



を造り、お店のPRと販
売ができるアンテナショ

アップとして活用させてい
ただけだと考えており
ます。市役所跡地なら市
民誰もが行きやすい場所
であるし、宍道湖を望む
絶好のロケーションであ
るため観光客も集まりや
すいでしょう。

ただしそのような施設
を造るにしても、予算を
かけ立派な建物を建てテ
ナント料を取りーでは駄
目。テナント料を払える
一部の業者だけの施設で
は意味がありません。お
よそ掘っ立て小屋でよ
く、ほぼ無料にしてどん
な業者でも使える施設
にしてほしいと思いま
す。

松江で頑張っている全
ての業者が平等に使える
のがポイントです。

松江市新庁舎 質問相次ぎ市回答 チラシを各戸配布

松江市役所本庁舎(松江
市末次町)の現地で替え
を計画する市が、事業内容
を説明するチラシを作成
し、市報8月号とともに各
戸配布を始めた。着工延期
を求める市民団体が住民投
票を求める市役所本庁舎(松

江)の理由▽事業費の説明▽新
型コロナウィルス対策との
関連▽財政運営の5項目
で構成した。

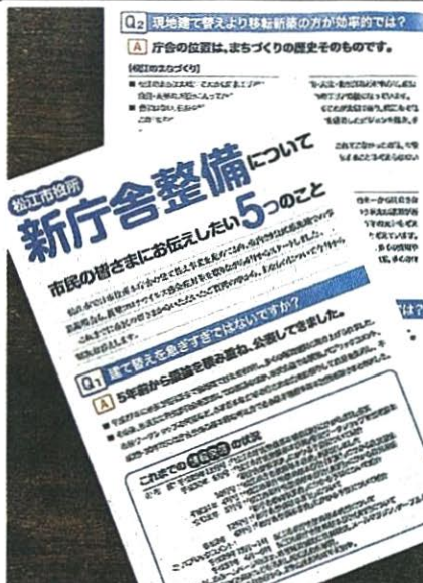
「建て替えを急ぎすぎで
はないか」との質問には、
5年前から市議会や市民会
議などで議論を積み重ね、
公表してきたと説明。市報
での掲載歴も記載した。

「現地で替えより移転
新築の方が効率的では」と
の疑問に対しては、市役所
の場所が変わると都市計画
や防災対策といったまちづ
くりを一から見直さなけれ
ばならなくなると強調。跡
地利用という新たな課題に
よって市民の混乱を招く移
転は適切ではないと指摘し
ている。

また、新型コロナウイル
ス対策と新庁舎整備はどち
らも最優先課題として同時
に進める必要があると主
張。庁舎整備に充てる財源
は使途が決まった地方債と
専用の基金で、新型コロナ
ウィルス対策には活用でき
ないと回答している。

市は29公民館区での事業
説明会を6月に始めたが、
新型コロナの影響で参加者
が限られ、大量の質問が電
話やメールで寄せられてい
る。市新庁舎整備課の岡田
等課長は「市民の皆さんが
抱く疑問に対して丁寧に
説明する必要がある」と話
し、事業への理解を深めて
もらうため、説明会が終わ
り次第、出前講座を企画す
る考えを示した。市報9月
号には、新庁舎に採用する
段々状のテラスや免震構造
に関する質問への回答を掲
載するとした。

(久保田康之)



松江市が配布を始めた市役所本庁舎の建て替え事業に関するチラシ

どうする!?

市役所 建て替え

現地建て替への再審議望む

松江市新庄町

門脇 正人 76歳

松江市新庁舎建て替え事業については、市民ワークショップやパブリックコメントが既に行われており、参加しなかった者が今頃になって言うのもどうかと思うが、気が付いた点について申し上げてみたい。

市役所は市民全員が多かれ少なかれ利用する建物であり、新庁舎の工期や建設事業費は専門家の意見があろうが、立地場所については素人も意見がある。最も重要なのは周辺環境を考慮した利便性であろう。

っている3地区の中では、明らかに県立プール跡地が松江市の中心部であり周辺の住宅も多いことから、車を使用せず徒歩で訪庁できる市民の数も多い。さらに、周辺には松江公共職業安定所や松江税務署などが入る松江合同庁舎やくにびき

ッセ、市総合体育館、徒歩圏内の松江駅などがあり、現在地との優劣の差は明確である。

現庁舎は、老朽化が激しくて使用に耐えられない状況というわけではないと思われるので、コロナ禍の今、可能であれば再度、工期や建設事業費なども含めて審議されるよう望むものである。

穴道湖北岸は一大観光地に

松江市浜乃木

原田 康行 77歳

本紙12日付の記事「60年前 移転先巡り大論争」に鑑み、市庁舎建て替え問題は「中海穴道湖淡水化事業廃止」などに匹敵する重要案件である。

て、穴道湖北岸一帯は水都松江の次世紀に向けての一大観光拠点として唯一開発可能なポテンシャルを持つ宝庫である。

国宝松江城の懐にある末次公園・現市役所所在地・松江しんじ湖温泉駅・フォーゲルパーク一帯は、国際文化観光都市ならではの城下町文化や茶の湯のまちづくりをコンセプトとした観光産業振興や水陸両用バスの水運など観光による経済効果を目的にした仮称「松江版・ハウステンボス」の観光振興実現のための一大観光拠点とし、次世代型の新市庁舎は県立プール跡地に移転新築すべきである。

江駅・大橋川南岸（今後20年の治水事業と官民一体のまちづくり）の動線と、県立美術館―湖岸公園などの合流ゾーンとし

係から 松江市庁舎の建て替え事業への投稿は宛先にこだま「市庁舎」特集係と明記。

どうする!? 松江市庁舎

住民投票へ署名活動開始

市新庁舎延期求め
松江の市民団体

12月に着工予定の松江市新庁舎の事業延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は、延期の是非を問う住民投票実施に向けた署名活動を始めた。期限の8月20日までに住民投票条例の制定を求めるのに必要な有権者（約3500人）を超える1万人分を集めたいと

している。

同会は島根スクエア（松江市菅田町）や同会事務局が入るパソコン教室（同市奥谷町）など市内4カ所に署名スポットを設置。今後スポットを増設し、街頭でも署名活動をすすめる。署名集めを担う「受任者」は現在320人で、1000人程度まで増やす予定という。21日にはJR松江駅前（同市朝日町）で初めての署名活動を実施。



署名を集めるメンバーら

＝松江市朝日町のJR松江駅前で

共同代表の片岡佳美・島根大教授は「コロナの問題などで市政に目」が向いている今だからこそ実現させたい」と話した。

【前田葵】

松江の観光新時代の象徴に

松江市秋鹿町

福田 昇 73歳

コロナ禍は時代の流れを変えるチャンス、そのスタートに新庁舎建設が巡り合ったようだ。松江は国際文化観光都市として観光ビジネスが成立しないと生きていけないことが今回よく分かった。松江がこれから飯を食っていくためには、観光ビジネスの発展を第一に考えたい。

「21世紀は観光の時代」といわれる。観光振興は世界の経済的発展と国際的な相互理解に寄与していたことが、今回人々の往来が遮断されたことにより鮮明になった。多く

の人々が地球的な規模で国境を越えて往来するようになった今、市庁舎も



21世紀に対応できる情報の集約地としての機能を有する戦略的実現モデル

基本賛成 工期と費用圧縮を

松江市上乃木

祖田 進 83歳

松江市役所本庁舎の建て替え事業が、総額150億円の見積もり事業費で波紋を広げている。現地で7年をかけて業務

の「創出市役所」を目指してほしい。

観光で訪れた人が誰でもインターネットが使える広場を創設し、市民との交流スペースを通じて世界に発信する拠点にしたい。他の観光地に先駆けて国際化をいろいろな形で実現し、今までの市庁舎にない21世紀型の市庁舎が、松江の観光新時代を象徴する建物になってほしい。

をしなからの建て替え

で、事業費内訳は基金50億円、国財政支援30億円、起債70億円。形状は6階建て、テラス張り出し形である。

これに対し、市民や団体から高額であることや現地建て替えへの反対意見が続出している。隣接

する出雲市や安来市では、既に100億円以内でシンプルかつスマートな庁舎ができており、松江市役所も遊休地の県立プール跡地や末次公園に少し規模を縮小して方形の庁舎を建ててはどうかなどの意見である。

私の意見は基本的には市の計画に賛成である。ただ、防災拠点も兼ねているとはいえ、7年の工期、150億円の事業費は、あまりにも長期で高額である。詳細を詰めて工期、費用を圧縮すべきである。遊休地は場合によっては、払い下げ（売却）して負債を減らすべきである。

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、こだま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

松江市新庁舎

中断が続行か二択で問う

市民団体 住民投票条例案公表

松江市役所本庁舎（松江市末次町）の建て替え事業の延期を求める市民団体が20日、制定を目指す住民投票条例案の内容を公表した。いったん事業を中断して計画を練り直すか、12月着工を予定する市の計画通りに事業を進めるかの二者択一で、建て替え事業の是非を問う。21日に街頭での署名活動が始める。

（佐々木一全）

きょうから街頭署名活動

条例案によると、住民投票「市民の意思の確認が目的、票は建て替え事業に対する」で、①新庁舎建設事業は中

断し、住民との対話、討論を踏まえて再考する②新庁舎建設事業は現行計画案のまま着工する③の選択肢から一つを選んでもう一方方式とした。18歳以上の全市民に投票資格があり、市長と市議会に結果を尊重する義

どうする!?

市役所
建て替え

務を課している。

一方、住民投票を実現するには、市内の有権者の50分の1（約3360人）以上の署名を1カ月以内に集めて市長に直接請求し、市議会でも条例案が可決される必要がある。

この日、市役所で記者会

見した市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）は条例案の内容とともに、21日から8月20日まで署名集めを展開すると発表。約320人の受任者が戸別訪問や街頭で呼び掛けを行うほか、市内の事務所や商業施設内で常設の署名場所を設置すると説明した。

片岡代表は「市民を交えた意思決定がなされていないことが問題だ。市民による新たな市政をつくるきっかけとしたい」と意気込み、民意を問うことで建て替え事業に「待った」をかけたという。

このほか、会員制交流サイト（SNS）を中心に活動する市民有志の「松江を考える会」（古志勝俊、錦織伸行世話人代表）が8月上旬に、住民対話の必要性や事業内容の妥当性について議論する公開討論会を企画している。



住民投票条例案の内容を説明する片岡佳美代表（中央）ら＝松江市末次町、市役所

松江市新庁舎

「市民も意見」

署名きょうから

松江市役所の新庁舎建設計画中断を求めている市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は21日から、住民投票条例制定を求め署名活動を始める。

「中断し住民との対話、討論をふまえて再考する」「現行計画案のまま着工する」の二者択一による住民投票を目指す。有権者の50分の1以上の署名が必要で、8月20日まで署名を集める。

求める会の呼びかけ人、片岡佳美・島根大教授や関耕平・同教授らが20日記者会見し明らかにした。この日、松江市条例制定請求代表者証明書が市から交付され、告示された。

松江市の場合「50分の1以上」は3千数百の署名が必要だが、求める会は「強い住民意思を示すため、1万以上の署名を集めたい」としている。片岡教授らは「上から行政が『こうだ』と押しつけるのではなく、市民が『私も意見が言えた』という状況を作りたい」と意義を強調した。

（奥平真也）

早くて安くてもうまい事業に

松江市内中原町

木佐 剛典 61歳

6月22日に放映された松浦正敬松江市長の記者会見で、市庁舎建て替えに関して、早い安いが全てではないという趣旨の発言があった。どこかの外食産業のキャッチコピーを思い出したが、もちろん「うまい」がないといけない。

市のメールマガジンで市長は、市役所移転には議員の3分の2の賛成が必要と述べているが、そこまで多数の賛成を得るのが困難なことが現地建て替えの理由では、とも思える。市の中心地につ

いても触れているが、歴史的にどこが市の中心地であつたかは過去の話である。一畑百貨店が移転した後の殿町が衰退したことも書いているが、市役所と百貨店は性質が違ふ施設である。

これまでの新市庁舎に関する市の広報は、市役

原発事故を想定した計画か

松江市浜乃木

石原 亨 83歳

松江市庁舎に関して寄せられた2日付「世事抄録」の風来さんの意見に大賛成です。コロナ禍に揺れる今、着工を強行し

所の専管事項であるというがごとくクローズド（閉じた）の印象がある。市民に情報を発信したことにして手続きを急いでいるようにも思える。

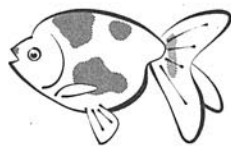
庁舎建て替え事業を「うまい」施策とするために行政、市民、専門家からなる委員会を構成し、機能的で後年まで使いやすい庁舎を再度検討していただきたい。

なければならぬのにはどんな理由があるのでしょうか。緊急説明会での説明が市民を十分納得させるものだったとは思えません。

福島レベルの原発事故を想定した災害対策が立てられているとすれば、橋北に県庁と市役所が隣

接するなどということも考えられませんか。共に機能まひを生じかねない危険は避けるべきです。

新市庁舎はホテル穴道湖のあった辺りが利便



性、ロケーションともに最適だと思います。市長が着工を急がれる理由が、市民を十分納得させるものであることを願っています。

お係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、こだま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

松江市新庁舎 外観淡い灰色

市景観審は色彩案承認



松江市が示した淡い灰色を基調とした新しい市役所本庁舎の外観イメージ

松江市が13日、現地建て替えを計画する市役所本庁舎（松江市末次町）の外観の色彩案を公表した。建て

どうする!?

市役所 建て替え

替え対象とならない本館西棟の外壁に近い淡い灰色を基調としたほか、テラス側面にはより濃い灰色を採用。水平方向の濃淡が目を引き色合いで、市景観審議会（会長・足立正智県建築士会会長、13人）は案を承認した。建て替え事業を巡っては市民団体から計画見直しを求める声が出ているが、市は予定通り進める考えで、色彩案を実施設計に反映させる。

現地立て替えを計画する

本庁舎は、地下1階、地上6階建てで、延べ床面積は約2万5千平方メートル。市民に開放するテラスを張り出させた外観で、12月の着工を予定している。総事業費は150億円を見込む。

市はこの日の同審議会で色彩案を示し「全体的に落ち着いた雰囲気を作り出し、隣接する末次公園や湖岸との調和を図ることがで

きる」と説明。同審議会は市の景観計画の色彩基準に合っている点や、西棟外壁の色に近い点を踏まえ、承認した。

建て替え事業を巡っては、大学教授らでつくる市民団体が、現地建て替えの是非や事業規模の妥当性を問う住民投票条例の制定を目指して活動を展開。別の市民団体も県立プール跡地（同市学園南1丁目）など他の候補地に建設した場合の総工費を試算し、計画の見直しを求めている。

（佐々木一全）

いま一度立ち止まり熟考を

松江市東奥谷町

太田麻衣子 44歳

県外から松江に来て4年になります。自然に恵まれ、人は穏やかで優しく、大変心地よい場所だと思っております。しかし、新市庁舎の建設についてメディアで取り上げられるたび、松江の将来について不安が募っております。

後まで見据えた使い方が検討されたのでしょうか。

高齡者が多い地であるのにもかかわらず、公共交通機関の便が悪く、自家用車で市役所に行くことが、市民にとってプラ

スでしょうか。市役所に行かなくても手続きができるシステムの構築の方が重要だと思います。市長の発言は終始あいまいな言葉であり、3年後の姿すら見えてきません。いま一度立ち止まり、新市庁舎の建設の方向性を熟考していただきたいと思っています。

業務しながらの工事は疑問

松江市西川津町

白石 光生 63歳

人口20万人、そのうち18歳未満の若者がたった3万人しかいない市に、150億円もの費用をかけた庁舎が必要でしょうか。70年後まで使うとのことですが、本当に70年

現庁舎で通常業務を行いなから解体し、新庁舎を建設する市の案には反対する。庁舎建て替えに反対しているわけではない。

現庁舎の場所が建設地としてベストであろうか。現庁舎は旧松江市で考えるならいいかもしれないが、20万都市・国際観光都市としての立地を考えると、湖の跡地が最適ではないだろうか。いつまでも旧町村に支所を構えることは将来無理ではないか。

バスターミナル建設構想もあるようだ。高層化にして多機能複合庁舎もよいのではないかと。

単純に比較するのは難しいが、松江赤十字病院も診療を継続しながらの建設で医療スタッフ、利用者にも多大な苦勞を掛けたいと思う。また、建設に携わる方たちの安全の確保、労働環境の維持などコロナ禍で果たして妥当な工法だろうか。

今、早急に新庁舎を建設する必要があるのだろうか。将来に禍根を残さないよう十分な検討をしていただきたい。

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、こだま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎



松江市新庁舎

松江市役所本庁舎の建て替えを巡っては、同市末次町に現庁舎が建てられた1960年前後に大論争に発展した歴史がある。同市殿町からの移転を決める際、橋北と橋南の議員間で意見が真っ二つに割れ、わずか1票差の攻防を経て決着した。松江市誌や松江市議会史をひもとくと、市が当時、住民投票の実施を視野に入れていたとの記述もあり、混乱ぶりがうかがえる。

(佐々木一全、久保田康之)

60年前移転先巡り大論争

市役所 建て替え どうする!?



のが建設地の選定だった。市議会史によると、市は約9900平方メートルの広大な空き地があったことから末次町の埋め立て地を移転先の「適地」と結論付けた。

では、計画案に賛成する橋北地区の議員との議論が白熱し、一触即発の乱闘寸前の騒ぎになった。

その後、市議会全員協議会が開かれ、計画案が1票差で否決されると、市は打開策として松江大橋北詰と末次町を結ぶ湖岸道路の造成を提案。再採決で、計画案が僅差で可決された。

当時は橋北地区の人口が橋南地区より約4千人多く、市誌は「市は一時、住民投票での決着も考えていた」と記載。建設省(現・国土交通省)が殿町周辺に官公署を集約するよう強く要請していたことも影響したとされる。

松江市役所本庁舎の歴史

1945年	太平洋戦争に伴い、殿町にあった初代庁舎を取り壊し
49年	跡地に2代目庁舎を再建
62年	末次町に3代目となる庁舎を移転新築(現在の本庁舎)
91年	石倉孝昭市長(当時)が移転新築の方針を表明→断念
2015年	松浦正敬市長が現地建て替えの方針を表明

一触即発乱闘寸前の騒ぎ

過去の教訓生かせるか

2億3800万円で、当時の延べ床面積は6800平方メートルだった。

元々の本庁舎は殿町にあ

松江市殿町にあった2代目

の市役所本庁舎の写真(松江歴史館提供)と、当時の移転論争を伝える新聞記事

され、終戦後に2代目の建物が跡地に再建された。たが、利便性の悪い構造だったため、市が59年2月に建て替えの検討に着手。移転新築することを決めた。

1票差で否決

その際、大論争となった

開かれた市議会特別委員会

頓挫と棚上げ

再び庁舎移転が議論されたのは30年後の91年だった。石倉孝昭市長(当時)が本庁舎を別の場所に移し、跡地に島根県立美術館を誘致する考えを表明。移転先には北公園や旧県立プールなどが浮上した。

しかし、いずれも条件面で折り合いがつかず構想は頓挫。後任の宮岡寿雄市長(同)が当選直後の93年の所信表明で「市庁舎(の建

市は今回、市議会との議論を経て、現地での本庁舎建て替えを計画しており、経緯は過去の状況とは大きく異なる。一方、新型コロナウイルスの影響が続く中での事業推進の是非といった新たな論点が浮上している。宍道湖と中海をつなぐ大橋川で市街地が南北に分かれた松江市で、市民を二分した移転論争から60年余り、当時の論争をどう捉え、何を教訓として生かすのか

災害も視野に利便性重視を

松江市西川津町

渡辺 俊樹 63歳

市役所に景観は必要ありません。松江市役所は移転し、跡地は松江温泉の再開発に使うべきです。市役所は利便性を重視すべきです。プール跡地に建て替えた場合、湖北線以外の地域は交通が便利になります。くびき道路とだんだん道路により橋南から行きやすくなります。

駐車場について、現在

そのときに市役所が近い方が良いのです。プール跡地は、国の合同庁舎にも近く、県庁や法務局も道一本です。年金事務所も橋を渡ればすぐの所です。

「今でしょ」と言い難い時機

出雲市美談町

中村香都奈 42歳

私が大好きなタレントは、「いつやるか?」「今でしょ!」でおなじみの

最も重要な点は、プール跡地は体育館やくにびきメッセに近いということです。災害発生時に体育館やメッセが避難所などに使われるでしょう。

林修先生だ。即実行を意味する「今でしょ!」は仕事でもプライベートでもとても大切にしてい

地で建て替える場合、地下駐車場を考えているようですが、それはまだこの地域になじめません。将来、市役所の別館が必要の場合、北公園というスペースがあります。以上のことから、プール跡地に市役所を建て替えるのが良いと思います。

る。

「今でしょ!」と言い

難いのは、松江市庁舎の建て替え。私は出雲市民だが、今も生まれ育った松江で働き、仕事でよく市庁舎に行くのでご意見させていたきたい。

新型コロナウイルスの影響で日本中の経済が落ち込んでいます。なぜそんな中、本年度に多額の経

費をかけて着工する必要があるのか。

緊急事態宣言が解除されて久しいが、天災は忘れた頃にやってくる。コロナの感染の第2波は必ずやって来る。そうなれば、また緊急事態宣言や休校、休業要請が出るに違いない。また市民がさまざまな面で苦しくなる中で市庁舎の建て替えなど言語断だろ。

今、市民に必要なのはご立派な建物ではなく、安心できる生活。「(市庁舎の建て替え)いつやるか?」「今じゃないでしょ!」

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、こだま「市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

「新庁舎待った」

松江駅前で訴え

署名活動開始へ

松江市の新庁舎建設計画の見直しなどを求めている市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」が近く、「建設を中断し市民との対話討論を経て計画を見直す」ことを求める住民投票条例の制定を目指し署名活動を始める。20日開始を目指しているという。

2日朝、JR松江駅前で

「新庁舎建設に待ったをかけよう」と訴えチラシを配った。

会の呼びかけ人の一人、片岡佳美・島根大法文学部教授がマイクで「皆さん一緒に声を上げませんか。庁舎計画は市民が十分に参加出来ないまま、見過ごすことは出来ません」などと訴えた。

（奥平真也）

松江を象徴するデザインに

松江市竹矢町

別所 泰一 35歳

生まれ変わる新庁舎にワクワクしている。が、立地条件や事業費など、さまざまな課題を抱えており、多方面からさまざまな意見が飛び交っているようだ。

誰のための市庁舎なのか。「みんなのまち」なのだから、みんなの市庁舎ならみんな建て替えない。市民の声が上がり、コミュニケーションの結果がきちんと反映されるまちであってほしい。市民の要望が全て通らないのは当たり前。ただ、完成の結果を待つだけでな

く、完成までのプロセスに市民が関わることで、市庁舎に愛着が湧くのだと思う。

ここで若者の一個人的な意見を述べたい。利便性なども重要だけど、デザイン性にも力を入れてほしい。ファッショナ

現在地にこだわる必要はない

松江市鹿島町

中村 彰男 73歳

松江市庁舎について、そもそも建設計画が浮上した3年ほど前、私は県立プール跡地が適地だと思ひ、職員の方とも話をしていたが、賛同さ

車のデザインにこだわるのと同じように、松江市の個性を前面に出し、市民にとって象徴となるようなデザインで全国にアピールしてほしい。

市庁舎の建て替えを機に「みんなのまち」を意識していきたい。「みんなのために、みんなでつくる、みんなのまち」であってほしい。

れる職員も結構ありました。現在地で建て替えとなると、7年もの長期間、市民も職員も大変不便になると同時に、建設費も大幅に増えると思われる。す。

市役所が移転となると周辺の食堂、レストランなどが暇になって困るとのお話もあるようです。

が、20万市民にとっては大きな問題ではありません。70億円もの借金をしてまで、現在地にこだわることは到底納得できません。県立プール跡地は高速道路にもJR松江駅にも近いのです。県庁方面にだって道路が整備され、非常に近くなりました。

周辺の市（出雲、雲南、安来）の庁舎は立派な建物で全て100億円以下で完成しています。一度決めたからといって前に進むだけではなく、状況（新型コロナウイルスや人口減少）が変われば再考してもいいと思います。

係から 松江市庁舎の建て替え事業についての投稿は宛先に、「こだま」市庁舎」特集係と明記してください。

どうする!? 松江市庁舎

「市新庁舎建設事業延期を」

松江市民の会がチラシ配り

住民投票目指し署名活動へ

12月着工予定の松江市新庁舎建設事業の延期を求める「松江市民のための新庁舎建設を求める会」は2日、松江市朝日町のJR松江駅前でPR活動を行った。延期の是非を問う住民投票条例制定を市

松江市新庁舎工事延期を求める活動への協力を呼びかけるチラシを配るメンバーら

|| 松江市朝日町のJR松江駅前



長へ直接請求するのに必要な署名を集める「受任者」への参加を呼びかけ、直接請求の仕組みなどを説明するチ

ラシ約300枚を配った。

受任者は松江市内の有権者であることが条件で、請求代表者

の片岡佳美・島根大教授らの委任を受け署名を集める。同会は直接請求に必要な有権者の50分の1（約3500人）を超える1万人分

の署名を集めるため、1000人程度の受任者の確保を目指している。署名活動は7月中旬ごろ始める予定。

【前田葵】

松江市新庁舎建設計画

延期へ住民投票実現を

市民団体 署名活動向け街頭PR



チラシを手渡しながら「熟議」の必要性を訴える市民団体のメンバー
――松江市朝日町、JR松江駅前

松江市が同市末次町の現地で計画する市役所本庁舎の建て替え事業の延期を求める市民団体「松江市民のための新庁舎建設を求める会」（代表・片岡佳美島根大教授）が、建設場所や事業規模などの妥当性を問う住民投票条例の制定に向けて、今月中旬に署名活動を開始する。2日はメンバーが初めて街頭に立ち、コロナ禍を踏まえた「熟議」の必要性を訴えた。

（佐々木一全）

どうする!? 市役所 建て替え

市内の大学教員や会社経営者らで結成した同会は、現地での建て替えが決まったプロセスが不透明で、総額150億円と見込まれる事業費に関する市民の理解も深まっていないと主張。市が予定する12月着工に「待った」をかけるため、住民投票の実現を目指している。

この日は同市朝日町のJR松江駅前に7人のメンバーが立ち、計画の疑問点などを記したチラシを通勤客などに配布。昨年11月に総事業費が公表されて以降、市民が意思表示する場がなく、新型コロナウイルスが市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼしていることを挙げ、「建て替えは早急に行うべき事業ではない」と訴え掛けた。

住民投票を実現するには、市内の有権者の50分の1（約3360人）以上の署名を1カ月以内に集めて市長に直接請求し、市議会が条例案を可決する必要がある。

同会は現時点で約150人いる署名集めの受任者をさらに増やす考えで、市民有志でつくる別の市民団体「松江を考える会」（古志勝俊、錦織伸行代表世話人）との連携も視野に入れる。片岡代表は「市民の将来に関わる大切な問題だ。幅広い年齢層の関心を高め、市に熟議を求めたい」と話し、情報発信に力を入れるとした。

庁舎地代払い続ける米子市

米子市皆生

秦野 久範 72歳

米子市が昨年7月に策定した「庁舎再編ビジョン」について市議会で論戦が交わされている。米子市の庁舎は全国でもまれに見る借地に建てられており、以前から議論されている。

本庁舎はほとんどが借地、新耐震基準建築物で築36年である。借地料は駐車場を含め、年間6681万円、市民の税金から支払われている。第2庁舎は全て借地で年間761万円。県立米子西高跡地に建てられた「ふれあいの里」も一部借地で

ある。市有地に建てられているのは「旧庁舎新館」「淀江支所」「下水道事務所」「山陰歴史館」だけだ。



耐震上の問題を抱える

「第2庁舎」に代わる施設として米子市は県と共同整備することにして予算案を提出した。市議の中には庁舎の分散は時代の流れに逆行すると反対している。

その前に市庁舎などが借地に建てられたことに異議を唱えなければならぬ。庁舎の分散が時代遅れかどうかは後回しにし、借地に建てられた建物の代わりに校区ごとにある体育館を活用すればよいと思う。災害での避難施設は小中学校を使用すればと考える。借地料を払い続けることに市民の不満は爆発寸前である。借地への庁舎は解消してほしい。

現地で建て替へは長期で大変

松江市乃木福富町

舟木 敏子 71歳

市庁舎の建て替えには賛成だが、現地で建て替へには反対だ。というのは近所の家が壊され、新しく完成するまでが大変だったから。

鉢物や植物にほこりが降り積もり、閉め切っているのも部屋の中は何となくざらざらした。ほこりと臭いは黄砂どころではなかった。騒音にも悩まされた。私たちはとにかく息苦しかった。なるべく外出して時間をつぶした。主人は体調を崩した。市役所の建物と庶民の

コロナ禍前の計画は再考を

松江市浜乃木

原田 稚子 50歳

「松江市庁舎の立て替え事業」について、松江をこよなく愛する一松江市民として思いをつづります。市民が新型「コロナウイルス」によって深刻な

打撃を受けているこの困難な時期に、なぜこんな急いで計画を進めようとするのでしょうか？

「松江市民による、松江市民のためのより良い新市庁舎」について改めて考えるべきではないでしょうか。

係から 松江市庁舎の建て替え事業について投稿を募集しています。是非や事業費、場所などに対する意見をお寄せください。宛先に、「だま市庁舎」特集係と明記。締切は当面設けません。

どうする!? 松江市庁舎

決めた計画をそのままの形で急ぐことが、果たして本当に必要なのでしょうか？

松江のことを真に考えるならば、いったんここで立ち止まり、市民の公平な意見を考慮した上で、コロナ禍を経た未来のより良い松江に向けて「松江市民による、松江市民のためのより良い新市庁舎」について改めて考えるべきではないでしょうか。

世事抄録

やはりと言つべきか、松江市役所の新庁舎建設計画をめぐり「待った！」の声が広がってきた。2月に市民有志が求めた緊急説明会を傍聴して市側の硬直姿勢に危うさを感じていたが、当初より30億円も膨らんだ事業費150億円、7年の長丁場となる現在地建て替えに疑問が噴出している。松浦正敬市長がことし12月着工に変更はない考えを述べたのに対し、新たに結成された市民団体は住民投票を目指すらしい。

新市庁舎計画に見る硬直

計画概要を読んで最初に感じたのは、街づくりと新庁舎のビジョンが案外希薄なことだ。老朽庁舎の耐震・防災から検討を始めて、なぜ大橋川で南北に分断された市街の弱点と橋北の現在地が孤立する

可能性がある思いが及ばないのか。かつて北へ10分離れた島根原発の2号機建設の際にも、大地震で橋が落ちたら怖いという反対意見が多く出された。市のホームページは「市中心部にあり、島根県庁舎にも近く、バス等の公共交通機関も確保されており適切」と説明するが話は逆。万一の場合に両庁舎もろともまひしたらどうする。